

日本原子力学会 熱流動部会 熱水力安全評価基盤技術高度化戦略マップ検討 WG  
第 1 回安全評価サブワーキンググループ委員会 (2018 年 2 月 27 日開催)  
議事録

日時：2018 年 2 月 27 日 (火) 13:30～17:30

場所：新橋 SY ビル 7 階 エネルギー総合工学研究所 702 会議室

参加者：

- 委員 功刀教授 (主査、京大)、山路准教授 (早稲田大)、田中教授 (茨城大)、  
茶木委員 (エネ総工研)、宮地様 (久保委員の代理、NFI)、小島委員 (東芝 ESS)
- 幹事 宇井幹事 (電中研)、鈴木幹事 (エネ総工研)、秦泉寺幹事 (MHI)、中村幹事 (JAEA)、  
西田幹事 (JAEA)、山田幹事 (日立 GE)

【配布資料】

- 資料1 日本原子力学会 熱流動部会 熱水力安全評価基盤技術高度化戦略マップ検討 WG  
第 1 回安全評価サブワーキンググループ議事次第 (案)
- 資料2 日本原子力学会 熱流動部会 熱水力安全評価基盤技術高度化戦略マップ検討 WG  
第 1 回安全評価サブワーキンググループローリングの方針に関する論点等
- 資料3 安全評価サブワーキンググループ 第 1 回幹事会 議事録 (平成 29 年 12 月 25 日  
開催)
- 資料4 安全評価 SWG 幹事会における議論・コメントの整理
- 資料5 熱水力安全評価基盤技術高度化戦略マップ 2017 (熱水力 RM 2017) 28 年度報告  
書 平成 29 年 3 月 日本原子力学会 熱流動部会
- 資料6 熱水力安全評価基盤技術高度化戦略マップ 2017
- 資料7 熱水力 RM WG、熱水力 SWG、安全評価 SWG の名簿、スケジュール

【議事概要】

(1) 背景・実施目標・一般事項の共有

- ・ 宇井幹事より本 SWG 活動の背景および実施目標について共有した (資料 2、資料 3)。
- ・ 2.3.2 節「技術マップ (課題整理表)」及び 2.4.2 節「課題調査票」のローリング方針について、第 1 回幹事会およびその後のメールベースでの審議内容を共有することで、委員の方々にこれまでの経緯をご理解いただき、本 SWG のローリング方針の方向性を確認した (資料 4)。

(2) 解析コードの利用目標、開発・整備の現状のニーズ等に関する議論

資料 5 を用い、解析コードの利用目標、開発・整備の現状のニーズ等について議論した。コード開発における現状の課題として、解析コードの持つ不確かさの評価技術およびスケール効果の予測技術が不十分である点が挙げられ、今回の RM 改訂にあたってはこれらの課題に資するべく、実験データベースを充実するとともに実現象を正確に捉えるための計測技術の開発が重要であることを確認した。また、国産システム解析コードの開発については、他国の技術力に依存することなく技術開発力を維持し向上していく上で重要であり、安全評価 SWG として今後も国産コード開発を支持する方針で一致した。

### (3) 「技術マップ（課題整理表）」のローリングに関する議論

資料 5 を用い、安全評価技術マップのローリング方針について、外的事象（津波、火山、竜巻、洪水等）を中心に議論した。賛否それぞれについて委員の方々から様々な意見があったが、外的事象による外乱の不確かさが大きいことから、安全評価技術マップでは外的事象を取り扱わない方針とした。また、安全評価技術マップにおけるコードの用途、分類の記載方法については、現時点で決めることが難しいことから、熱水力 SWG での議論も踏まえ、その後の WG で審議して決めていく方針とした。

### (4) 「課題調査票」のローリングに関する議論

資料 5 を用い、課題調査票のローリング方針について議論した。2017 年度版の課題調査票は利用者の視点からみて理解しにくいとの意見が多く、今年度（2018 年版）のローリングではまずは各課題を整理し直し、その上で重要度分類等を取り入れることで利用者が利用しやすい内容にブラッシュアップする方針とした。

### (5) 熱水力 SWG との関係

安全評価の下に基盤技術や熱水力技術があることを踏まえ、まずは安全評価側の考え方を整理し、その上で熱水力 SWG との関係を議論する必要があることを確認した。

### (6) 今後の予定

- ・ 第 2 回熱水力 SWG（日本原子力学会 2018 春の年会@阪大）
- ・ 安全評価 SWG 及び熱水力 SWG 合同幹事会（4 月頃）
- ・ 第 1 回熱水力 RMWG（4 月頃）

以上